

PARIS

フランスのエスプリをデザイン

レストラン・カフェ ラグノオ
Restaurant Café RAGUENEAU

Designer : Ciel Rouge Creation
Henri Gueydan - Fumiko Kaneko



1. 家具がオブジェとなっているウエイティングスペース
2. 入り口まわりとテラス席を見る。店名バナーのデザインも設計者による



Add : 202, Rue Saint Honore 75001 Paris
Text by Fumiko Kaneko - Henri Gueydan
Photos by Christo Phe Filloux, Yeong-Ho Yum



カフェ「ラグノオ」はシラノ・ド・ベルジュラックゆかりのパリでも有数のサロン・ド・テである。創業1608年、ルーブル宮やコメディ・フランセーズで有名なバレ・ロワイヤル広場近く、パリで最も古いカフェの一つ。作者エドモン・ロスタン行きつけの店であった。シラノの親友、詩人にして菓子職人、料理人「ラグノオ」なる人物像を彼が着想したのも、実はこのカフェの歴史と名に因んだものである。従って改装計画のコンセプトは、ヴァガボントのように自由な詩人のエスプリのフォルム化を意図した。

手掛けたデザインは店内の内装のみならず、椅子などの家具から商品棚、バー・カウンター、看板、外壁の掛け物、照明器具、「R」を強調したロゴのグラフィックまですべてにおよぶ、シンプルな、しかしそのフォルムとボリュームにおいて実に豊かな空間……。その中にシラノの精神、その世界、その自由さを象徴するかのようにフリーなフォルムのオブジェが置かれる。シラノが立ち現れたかのごとく、詩句のフレーズ、ひびきはフォルムのひびき、すなわちオブジェ=家具として表現した。それらすべてに生命を与えるのは、色彩と光をためこんだ空間である。オブジェ=家具=商品棚は舞台でスポットを当てられた俳優の躍動である。鮮やかな色彩で性格づけ

られた壁が背景=デコール。オブジェはムーブメントにおけるエコーのように同一のカーブを持ち、優雅でありながら凛とした鋭角の先端をもって終了する。それはこの詩人の資質、すなわち自由な精神と軽やかなる象徴である。空間をよぎるペンダントもしかり。天

井に揺かれた黄金の一番の輪とともに高揚する詩人の魂と精神（エスプリ）を象徴する飛翔するフォルム。椅子もカナベも大きく弓をえがく照明器具も彼の唇から紡ぎ出される、時には辛辣で不思議なユーモアをたたえるあふれる言葉の響きなのだ。

